

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第245号 2015年7月18日

OCHADAI GAZETTE Summer, 2015



写真：圓谷栞理(写真部)

対話と実体験を重ねる「学びの場」として

CONTENTS

TOPICS

- | | |
|--|---|
| 学長からのメッセージ…………… 1-2
入学式学長告辞 | 附属学校園からのお知らせ…………… 7-8 |
| 学生のアクティビティ…………… 3-4 | キャンパス点描…………… 9-10 |
| 教員紹介…………… 5
● 福本 まあや先生
(基幹研究院人文科学系助教) | ● 平成27年度 高校教員等(高校・予備校)向けオープン
キャンパスを開催しました。 |
| 卒業生紹介…………… 6
● 榎 美紀さん
(人間文化研究科 数理・情報科学専攻 修了) | ● 平成27年度 みがかずば奨学金授与式及び学部生成績
優秀者奨学金授与式を挙行了しました。 |
| | ● 平成27年度 桜蔭会研究奨励賞・大学院博士後期課程
研究奨励賞・錦織チサ工奨学金授与式を挙行了しました。 |



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

入学式学長告辞

学長からのメッセージ

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

本日、527名の新入生をお迎えし、お茶の水女子大学の歴史に、新たな1ページを書き加えることが出来ますこと、とても嬉しく思っております。

ご家族やご関係の皆様にも、謹んでご入学をお祝い申し上げます。

また、御来賓の皆様には、お忙しい中、ご臨席を賜りまして、まことに有難うございます。

今年度は、スロバキアとインドネシアからの留学生の方々をお迎えしています。この会場に、日本の国旗と共に、留学生の方々のお国の国旗も掲げてありますが、毎年、国境を越えて、いろいろな国からお茶の水女子大学に留学生をお迎えできますことも、私たち教職員にとりまして、大きな喜びです。

お茶の水女子大学は、1875年(明治8年)に国が設置する女性のための初の高等教育機関「東京女子師範学校」として、文京区の「御茶ノ水」の地に開校されました。その後、教育制度の変遷に伴って、東京師範学校女子部、高等師範学校女子部、女子高等師範学校、東京女子高等師範学校と組織と名称の変更を経て、1949年(昭和24年)に、諸先輩のご努力によって、新制大学へと移行し、今年創立140周年を迎えます。

秋には140周年記念式典や行事が予定されていますので、140周年の記念すべき年の入学生でいらっしゃる皆さまには、是非、様々な行事等へのご協力とご参加をお願いいたします。

新制の国立大学として「お茶の水女子大学」の設置を求めた文書には、「各分野にわたって指導的地位に立つ女性を養成することが本学の使命である」こと、「指導的人物の育成には教養と専門性が必要である」ことが述べられており、諸先輩たちの先見性には、驚かされます。

こうして、長きに渡って、本学には「教養と専門性を備えた女性リーダーの育成」が期待されてきました。このことは、現在でも変わることなく、お茶の水女子大学のミッションとして受け継がれてきています。

新制大学に移行するに当たって、それまで長く愛称として親しまれていた「お茶の水」を大学の名称とし、小規模ながらも特色ある総合大学として歩み始めました。新制「お茶の水女子大学」には、東京女子高等師範学校の頃と同様に、多くの先駆的な考え方をもちた優秀な女子学生たちが入学してきました。そして、女性たちの社会進出が困難な時代から、本学では一貫して、指導的な教育者や科学者・技術者等を育て、その実践を通して、女性の自立と社会的活躍を支え、社会の知的基盤の充実に寄与してきました。これまでに、数多くの優れた卒業生を世に送り出しています。卒業生たちは、学術・研究、教育、産業、行政、報道など、多様な分野で優れた実績を挙げ、後に続く女性たちのために、道を切り拓いてくれました。

女性が学術研究を行うことが困難な時代から、本学の卒業生は世界的な視点に立って活躍してきました。例えば、わが国の女性科学者として、米国留学を実現し、初めて海外の学術誌に論文を発表して、初の女性理学博士となった保井コノさんや、女性で初の帝国大学生となり、二人目の女性理学博士となった黒田チカさん、また、第二次世界大戦前後の困難な時期に、フランスに渡って、ジョリオ＝キュリー夫妻の許で国際的な女性物理学者として活躍した湯浅年子さん—この方は日仏両国にて学位を取得しています—、帝国大学で無給の副手として研究を続け、初の女性農学博士となった辻村みちよさんなどを先駆けとして、現在に至るまで、数多くの学者・研究者が育ち、国の内外で活躍しています。

わが国初の女医として知られている荻野吟子さんや、英国留学の経験を経てシャム国(現・タイ王国)の教育に尽力し、その後東京女子大学の2代目学長を務めた安井てつさんも、本学の卒業生です。また、わが国の女子教育の推進のために学校設立に努力した卒業生も数多く、関東大震災の翌年1924年に本学の同窓会である桜蔭会が開設した「桜蔭学園」は、その中でも良く知られた例です。

2004年に、全ての国立大学は、国の組織から独立した「国立大学法人」となりました。それまでは、国立大学は、国の機関として一律に決められた国の規則の下にあったのですが、

法人化を境に、それぞれの大学が教育と研究に独自性を発揮して、大学運営をしていくことが求められたのです。



人々への思いやりを忘れず、自分たちに何ができるかを、問い続けていただきたいと思います。

グローバル化が進む社会では、複雑性・多様性を経験して多面的に自分自身と世界を見直し、自分とは異なる価値観や考え方をを持った人々と深く理解しあうために、対話と実体験を重ねる学び

が益々重要になっています。予測不能な未来に備えて、次世代を担う若い人たちが、国の枠組みを超えて、多様な世界の同世代の人たちとのつながりを深め、信頼関係を築いて互いに切磋琢磨することがきわめて重要です。

今、お茶の水女子大学では、社会における人間の在り方やそれを支える制度、生命の営みとその仕組み、自然現象と物質の成り立ち、人間生活を支え健康と幸福を維持するための科学・技術や芸術など、幅広く多様な教育と研究が行われています。そして、多様な価値観を持つ女性たちが共に学び合い、共生することによって、自己を磨き、真の国際人として活躍する力を培って行くことを願って、様々な取り組みを推進しています。

本日入学された皆さまが、お茶の水女子大学を「学びの場」として選び、入学してくださったことを、私たち教職員は心から嬉しく思っています。そして、このキャンパスで充実した学生生活を過ごされ、広い知識と豊かな想像力を備えて、日本と世界の希望溢れる未来を創造することのできる優れた女性として成長されることを願っています。皆さまには、本学の140年の歴史に、新しい歴史のページを、しっかりと書き込んでいただきたいと思います。

こころと身体の健康を大切になさって、学園生活を思い切り楽しんでください。これからの皆さまの実り多い大学生活を心からお祈りして、お祝いの言葉を結びます。

ご入学、まことにおめでとうございます。

2015年4月4日

学長 室伏 きみ子



入学式学長告辞

学長からのメッセージ

その際に、お茶の水女子大学は、国境を越えた研究と教育文化の創造と、世界中の全ての女性たちの夢の実現を支援することを旨とし、『学ぶ意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する』との標語を掲げました。そして、学びたくても学ぶことのできない開発途上国の女性たちをも含めて、国籍や年齢を問わず、女性たちの成長と資質能力の開発を支援するための活動を開始しました。世界中の女性たちと学びを共有し、多様な文化と異なる価値観や考え方をを持った人々と深く理解しあい、互いに切磋琢磨しながら、自らを成長させていくことのできる学園でありたいとの決意を持って、グローバルな女子教育へと舵を切ったのです。

その後さらに、「リベラルアーツ教育」、「リーダーシップ教育」など、特色ある教育システムを構築して、若い女性たちが、社会の中で自らが何をすべきかを知るための「学びの場」を提供してきました。本学に集う女子学生たちは、その学びの場において、社会に貢献できる人材となるために自己を磨き、将来への夢を育てています。

現在、私達を取り巻く世界は、大きな変化の時期を迎えており、社会環境が世界規模で変動する中で、人々の価値観や生活基盤が揺らんでいます。

今年は本学にとって140周年という節目の年だと申しましたが、同時に、今年は第二次世界大戦後70年という、日本にとって、とても大切な節目の年でもあります。日本が70年間にわたって他の国の人々や国土を害することなく、平和を守ってきたことは、世界に誇れる実績だと言えます。どうか皆さまには、私たちの国が守り続けてきた、平和への貢献という素晴らしい実績を忘れず、日本国民としての誇りを持ち続けていただきたいと思います。

様々な国で争いが起こり、また、世界中で、様々な災害が頻発して人々の穏やかな生活が失われる事態が起こり、多くの人々の命が失われている状況がある中で、日々の暮らしが穏やかに続くこと、普通の生活を送ることが出来ること、人々が信頼し合い手を取り合って暮らせることの大切さを、心に刻んでいただきたいと思います。

また、東日本大震災からの復興は、まだまだこれからです。日本と世界の将来を担っていく皆さまには、弱い立場にある

学生のアクティビティ

お茶の水女子大学附属図書館では、学生がさまざまな形で活躍しています。今回は、LiSAとして図書館で活動している2人のメンバーが、LiSA、LALA、MuSAをご紹介します。

リサ LiSA



LiSA 3期目
三村

LiSA 1期目
瑞島

みなさん、こんにちは! お茶の水女子大学のLiSAです。
え、LiSAって何? と思ったそこのあなた!
LiSAはお茶大図書館がやっている、珍しいプログラムなんです。
そんなLiSAについて、三村と瑞島をご紹介します!

LiSAとは
Library Student Assistantの略称で、
学生と図書館スタッフの協働による
図書館活性化のための活動です。

活動中は、おもにピンク色のエプロンを
着用して、首から名札を下げています。

学内インターンシップのひとつで、
1時間 500円の謝礼をいただいて
働いています。



4~9, 10~3月の半期ごとの活動で、
募集も4月と10月に行われます。

活動日は毎月自分で決められます。
月の終わりに翌月の1か月分の
業務計画書を作成してメールで提出します。

半期ごとのプログラム終了後に業務報告
書を提出すると、学長・図書館長からの
修了証がもらえます!!

LiSAの通常業務

図書修理

ページがやぶれた、
見返し割れた、など
など傷ついた本たち
を救う作業。
修理講習会で修理の
技術を学びます。



図書装備

ブックカバーをかけたり、天地印
を押したり…資料を書架に
並べるための準備をします。



資料の配架/書架整理

返却された本を棚に戻したり、ほこりをはら
いながら本の並びを整えるお仕事。
返却本の中に書き込みが見つかったら、消
しゴムをかけます。みんなが気持ちよく図書
館を利用できるようにしています。



返却された本を書棚に戻す時、棚
の場所を覚えているとかなり手際
良くできるのですが、新人の私は
右往左往してしまいます…

そのほかこんなことも しています。

図書の除却、データ入力、蔵書点検など。



図書選書

学生目線で図書館に置いて
ほしい本を選書。
実は結構難しいお仕事…

図書装備の業務では、書棚に並べる前の本を見る
ことができます。たまに関係者しか入ることので
きない地下書庫に入ってお仕事できる時も!!



LiSA キャラクター

しほりちゃん

自主企画など

学生協働ワークショップ in 東京 2014

東京近郊の他大学の図書館学生サポーターの
方々と交流会を開きました。
他大学の学生さんと意見を交わすのはとても
いい刺激になります。

企画ミーティング

自主企画はLiSAや職員さんの提案から
始まります。
昼休みなどに
ミーティングを
行い、計画を立
てていきます!



「心に残ったひとこと」企画

本を読んで印象に残っ
た言葉を学生に募集す
る企画です。図書館1
階やTwitterで募集し
ました。



キャリアカフェ文庫

小説、写真集、キャリア支援など、学生が気軽
に読める本を取り揃えたコーナー。



LiSAマーク付きの
ものは、選書から
装備まですべて私
たちが行っていま
す!

就職説明会

国立国会図書館の就職説明会を毎年開催してい
ます。この他にも、図書館で働いているOGをお
招きした座談会なども実施しました。

POP 交流会



お勧めの本の紹介カード
を書きます! 昨年は他大
学の学生や職員の方と交
流もしました。

企画展示

テーマ設定から選
書まですべてLiSA
が行います。





瑞島 真弥 (1年)
私がLiSAを始めたのは、司書の仕事に興味があったのと、図書館が好きで、ぜひ図書館で働いてみたいと思っていたからです。それまで図書委員会などもやったことがなく、図書館の仕事の経験は全くなかったのですが、図書館の職員の方が一から丁寧に優しく教えてくださるので、何も心配はありませんでした。今は、覚えた仕事を手際よくできるように頑張っています。

9:30	LiSA	9:00	1,2 限
10:30		10:30	
10:40	3,4 限	10:40	3,4 限
12:10	お昼休み	12:10	お昼休み 自習
13:20		13:50	LiSA
14:50	5,6 限	14:50	
		15:00	7,8 限
	自習 アルバイト準備	16:30	
		16:40	9,10 限
18:20	アルバイト	18:10	帰宅
19:50			

三村 千明 (2年)

昔から本を扱うのが好きで、LiSAを始めました。
自主企画ではTwitterのLiSAアカウントの中の人をしたり、展示企画でPOPを作ったり（そしてこの記事を作ったり）と、職員さんがサポートしてくださって自由にできるのでとても楽しいです！

ここからはLALAとMuSAをご紹介します！

ラ ラ LALA

LALAデスク

図書館 1階ラーニング・コモンズ入り口

授業のある平日 9:00～18:00、授業のない平日 12:00～15:00

図書館でレポートを書いていたら急にパソコンに問題が起きてしまった！そもそもレポートのテーマが見つからないし書き方もわからない…。大学生で起こるそんな質問や悩みは、図書館1階ラーニング・コモンズのLALAデスクで相談してみましょう！！

LALAはLibrary Academic Learning Adviserの略称で、9人の大学院生がLALAとして活動しています。上記のようなことのほかに、文献検索や履修登録の仕方、プリンターの詳しい使い方などの質問に答えてくださいます。私も実際にパソコンの無線

LANのつなぎ方を教えていただきました。LALAさんは、ミーティングをしてLALA活性化に取り組んだり、私たち学生の学習支援のためにトレーニングプログラムを受けたりして、様々なことを研究してくださっています。お話を伺った林(リン)さんは、「学生に教えることで、自分自身の足りないところにも気が付くので共に学ぶ場となっています。質問された方が満足できる答えを出せるように様々なことを調べて答えることを心がけています。」と話してくださいました。

(インタビューア：瑞島)



LALA2年目
林さん



LALAキャラクター

名前募集中！

ム サ MuSA

MuSAの主な活動時間：平日 13:00～17:00

MuSA(Museum Student Assistant)は歴史資料館で働いていて、現在は5名が活動しています。今回はMuSAの菅原さんと渡邊さんにインタビューをしました！MuSAさんは、資料を保管する部屋の湿度・気温の管理、清掃などを主に行っています。ほかにも、資料の運搬、展示の準備やギャラリートーク(展示を分かりやすく解説)など様々な業務があります。MuSAになるには、学芸員課程を取るなど、ある程度専門知識が必要です。



歴史資料館キャラクター

ちせちゃん

* MuSAの楽しさ*

貴重な資料に、実際に触れられるというのがとてもいい刺激になるようです。展示パネル作りでは、実際に作業に関わっている実感が持てるのだそう。幅広い仕事があるので、いつも新鮮な気持ちで業務ができるそうです！職員さんが優しいので様々なことが聞きやすいとのこと。

みなさんもぜひ歴史資料館に行ってみてくださいね。お待ちしております！

(インタビューア：三村)



MuSA2年目
菅原さん



MuSA1年目
渡邊さん

小さい頃から博物館が好きで、学芸員を目指しています。はかま姿でギャラリートークをしました！

博物館実習の前に経験を積みたくて始めました。毎回新しいことばかり！

平成27年度の開館予定日はオープンキャンパス、徽音祭、創立記念日などですが、事前に申し込みは平日に開館することもできます。詳しくは shiryo@cc.ocha.ac.jp まで。

教員紹介

今回は、基幹研究院人文科学系助教の福本まあや先生をご紹介します。福本先生は、大学院では比較社会文化学専攻舞踊・表現行動学コース、学部では舞踊教育学コースにご所属です。

自分なりの大志を抱いて

Q ご出身、ご経歴などについて教えてください。

北海道札幌市出身です。高校卒業後、お茶の水女子大学舞踊教育学科(当時)に進学。大学卒業後は9か月間、欧米各地でダンスの修行を続け、帰国後はアルバイトなどをしながらフリーで公演活動を開始しました。その後、お茶大の大学院に進学し、後期課程在学中に富山大学での職を得て単身赴任。今年の春からお茶大に教員として戻りました。

Q 舞踊の世界に入られたきっかけは何ですか。

高校生の頃は獣医になりたいと思っていました。高校2年の夏に道東の獣医師の元で数日間、住み込み体験をさせていただいて、思い描いていた世界との違いに驚き愕然としました。かなり悩んだ末に自分の好きなことをしようと思い、子どもの頃から好きだったダンスを仕事にしたいと考えました。そこで親に、留学してダンサー修行をしたいと言いましたが、経済的な問題もあり反対されました。ただ国立大学に進学するのであれば応援するというので、お茶大に進学したのです。

Q ご自身もダンスをなさるのですね。

はい。ダンスをするというか、ダンス漬けの人生です。フリーの振付家として活動を開



Fukumoto Maya 福本 まあや



始した時は自分のダンスとは何かを探求し、劇場だけでなくギャラリーや野外で踊ることもしていました。ここ数年は、ダンスよりも、その基礎訓練に取り込まれているボディワークを研究対象としていたので、ダンスからこのまま離れるのかなと感じ始めていたのですが、お茶大に教員として戻ることになり第2のダンス人生開始という感じです。

Q 現在の研究内容について教えてください。

ここ数年取り組んできたのは、日本と米国の4つのボディワークを比較して、そこにある身体の考え方や方法論の構造を整理して解説するような研究です。ボディワークというのは、身体を内側から感じる経験を通して、意識的に直そうとしても直すことのできない動きの癖を修正したり、身体の調整を図るワークの総称です。日本の野口整体や野口体操、操体法などがそれにあたり、西洋にもフェルデンクライス・メソッドなど様々にあります。ボディワークは欧米では舞踊教育の一領域を占めるほど注目されているのですが、日本では個人的に取り組む舞踊家はいるものの、研究者にはあまり知られていないという現状があります。

研究から何が分かってきたのかと言うと、短くまとめるのは難しいのですが、例えば、ボディワークによく見られる一見突飛な指導法にはそれぞれ理由があって、その突飛さは身体の見え方(三人称の知覚)と感じ方(一人称の知覚)の違いにあるということです。それゆえ、ボディワークはカルト集団のよ

うだといわれてしまうこともあります。これはとても危険な状態だと思います。私たちは身体の見え方と感じ方にあるギャップに十分気づいて、内側の感覚にアクセスする方法を学び共有してゆかないと、身体が心からすっかり別物になって、衝動が大きくなるまで気が付かず、どうにもコントロールを失ってしまうということになりかねません。

Q 現在の研究に関心をもったきっかけは何ですか？

博士論文で取り組んだコンタクト・インプロヴィゼーションというダンスの即興の形式が、多くのボディワークを取り込んでいて、学部生時代に関心を持っていた山海塾という舞踏グループも野口体操を取り込んでいて、その共通性に関心を持ったというのがきっかけです。ダンスの実技経験がなければ、この研究を始めることはなかったとも思います。

Q お茶大の印象、学生に向けてのメッセージをお願いします。

着任2か月なので、印象といっても限られたものになりますが、とにかく今のお茶大には、学生に多くの選択肢が用意されていると思います。ただ、その用意されている選択肢を賢く使いこなすには、明確な目的意識と一方で気持ちのゆとりが必要だろうと思います。狭い視野にならないように、自分なりの大志を抱いて学生生活を送ってほしいと思います。

文責：西川 朋美

(基幹研究院人文科学系准教授)

卒業生紹介

グローバルな視点をもって社会に貢献できる研究を目指す



Enoki Miki
榎 美紀

日本アイ・ビー・エム(株)
主任研究員

2007年お茶の水女子大学人間文化研究科 数理・情報科学専攻 修了
同年日本アイ・ビー・エム(株) 東京基礎研究所 入社 神奈川県出身

自分のアイデアを形にする

IBMは、世界中に拠点を持つグローバル企業である。IBM東京基礎研究所は1982年にアジアで最初のIBMの基礎研究所として設立された。「IBMの研究所は世界中にあり、面白いことを考えている人は世界中にいて、一緒に仕事できることがとても楽しい」とIBM東京基礎研究所の榎さんは言う。就職活動をした際にIBM東京基礎研究所を訪問し、研究のレベルの高さや、自由な雰囲気、在宅勤務の制度なども充実しており、女性が働きやすい環境に一目惚れした。「自分たちが考えたアイデアを具体的な形にし、そして将来的にはIBMのソリューションとして世に出す」という過程が研究所で感じる一つのやりがいだ。お茶大では、データベースの研究室に在籍し、博士前期課程を修了した。研究所では、学生時代の研究の専門性を活かしつつ、Webアプリケーションサーバのデータベースアクセス高速化のための性能分析・改善を中心に行っていた。

社会に貢献できる研究を目指す

社会人になって5年が過ぎようとした頃に東日本大震災が起こる。IBM東京基礎研究所では、震災で被害を受けた地域に少しでも役に立ちたいとの強い気持ちから「Act for Japan with innovation (AFJI) プロジェクト」が立ち上がった。榎さんが小学校から高校までを過ごした福島県は、未曾有の

危機に直面していた。「自分にできることはないか?」。震災直後には、いろんな情報をソーシャルメディア上からも取得できたが、正しくない情報も多く出回った。毎日入ってくる情報の信頼性が担保できない。そこで所内の研究員に呼びかけて、つぶやかれるメッセージの信頼性を評価する分析プロジェクトをAFJIの活動の一つとして立ち上げた。研究所にいる様々な専門性を持つ人が集まり、部門の垣根を越えて協力した。その後、このプロジェクトで培った技術とマネジメント力を基に、ソーシャルメディア分析のプロジェクトに進化する。プロジェクトでは人間が発信するメッセージをソーシャルセンサーとして、社会に影響のある人やインパクトのある話題を発見し、企業が何らかの行動を起こす際のヒントを提供する。こういった異なる専門性を持つ人々との交わりを通じて榎さんは、様々な観点の意見から刺激をもらうだけでなく、自分の専門についてはより一層の責任を持って役割を果たすことの重要性を学び、携わる研究がどのように社会に役立っていくだろうかと考え続けることの大切さを強く感じていった。

グローバルに活動する

データアクセスの高速化やJavaのアプリケーションの性能評価の研究から、ソーシャルメディア分析などに携わる中で、榎さんは「研究に広がりが出てきたし、研究者としての視点や研究力が次第についてきた」と言

う。その頃から、今後の研究活動の幅を広げるためにも学位の取得を考えるようになる。2013年4月、本学大学院博士後期課程情報科学領域に社会人学生としてキャンパスに戻る。学位研究の内容は、元々の専門であるデータベースと、ソーシャル分析プロジェクトで研究してきた分析体系を統合して、リアルタイムに高速処理するためのシステムの開発となっている。博士の研究と研究所の業務は、双方とも新しいものを追いかけて質を深めていく作業であり、スピードも要求される。二足のわらじは大変ではないかと率直に聞いてみた。「時間管理は大変だけどやりがいを感じて楽しい。研究所も学位取得を推奨し、大学のゼミや授業へ参加できるように万全の体制での支援をしてくれる。」「短時間にどれだけ集中できるかが勝負」と語る榎さんは今、博士の学位を取得し、世界を相手に活躍することを目指している。

文責：小林 一郎 (基幹研究院自然科学系)

わたしのオフタイム

研究所の焼肉部の仲間と焼肉へ! カルビを愛して焼肉部をつくりました。部門をまたいだ皆との自由な会話も良い気分転換になります。

附属学校園からのお知らせ

附属幼稚園便り



創立当時の園舎

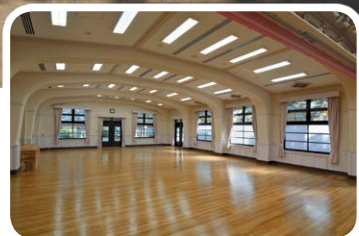


れました。工事中の子どもたちの様子については、OCHADAI GAZETTE 2014年4月号に掲載いたしました。子どもたちは、どんな時もその時ならではの経験を自分たちの生活に生かしていくのだ……ということを深く感じさせられた工事中の日々でした。

快適に復元された園舎で、すでに1年以上の生活を重ねてきておりますが、どのように素晴らしくなったのか、いくつか紹介させていただきます。

格天井(ごうてんじょう)の復元

窓枠を変えるために外壁を削ったり、全ての部屋の天井を壊したりなど工事は本当に大掛かりなものでした。天井を落としてみたところ、全ての部屋から竣工当時の格天井(角材を格子に組み、その上に板を張った天井)が出てきました。寺院建築や書院造りなど、格式の高い部屋に用いられている天井です。全ての格天井を残すことは予算的にも設備的にも無理でしたが、急遽計画を変更して、園長室だけは格天井を生かす形で改修されました。大事に使い続けている古い書棚ともびつたり合う趣のある園長室に再び生まれ変わりました。



遊戯室



現在の園長室

御茶ノ水(現在の湯島)に本大学が開校した次の年、1876(明治9)年に日本で最初の幼稚園として、附属幼稚園は開園されました。関東大震災で園舎が焼失し、本大学とともに大塚に移転したのが、1932(昭和7)年の12月で、次の年1933(昭和8)年の1月から現園舎での保育が始まりました。

それから80年目の年である2013(平成25)年度に、長年の念願がかなって、大規模改修工事が行われました。80年の年月の中で、ここまでの大掛かりな工事が行われ

たのは初めてのことだったと思います。通常の保育をしながら、2学期から3学期にかけて、園舎内での引越しを何度も重ね、少しずつ進めていくという方法で工事を行いました。工事が完了したのは、2014年度の始業式前夜でした。途中はどうかのことかとハラハラドキドキの連続でしたが、登録有形文化財に指定(2008年3月)されている園舎が竣工当時の趣に見事に復元され、それとともに、園舎全室に空調が完備されるなど、安全で快適な園の暮らしが確保さ

廊下の照明の工夫

幼稚園の園舎の中には、玄関から真直ぐ長く続く廊下がありません。測ってみたところ幅は2メートル66センチ、長さは51メートル72セ



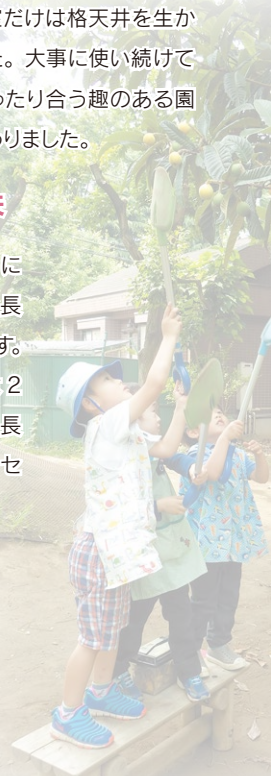
3歳児お帰りの集まり(4月)



はじめてのお弁当



洗濯



附属学校園での出来事 (2015年4月～6月)

【いずみナーサリー】

4月

- 避難訓練
- にじ組 (1、2歳児) 保護者会

5月

- 避難訓練
- ほし組 (0歳児) 保護者会

6月

- 避難訓練
- 個人面談

【附属幼稚園】

4月

- 1学期始業式
- 入園式
- 保護者全体会
- PTA総会
- 避難訓練
- 5歳児遠足
- 誕生会
- 4歳児親子で遊ぶ日
- 同窓会ちくさ会主催第17回ホームカミングデー

5月

- 子どもの日の集い
- 健康診断
- 親子遠足 (新宿御苑)
- 誕生会
- 避難訓練 (引き取り訓練)

6月

- 5歳親子で遊ぶ日
- 誕生会
- 4歳児・5歳児親子ジャガイモ掘り
- 3歳児親子で遊ぶ日

【附属小学校】

4月

- 第1学期始業式
- 入学式
- 各学年保護者会
- 校外学習 (4・6年：小石川植物園)
- 校外学習 (2年：新宿御苑)
- 委員会活動 (5・6年) 開始
- 校外学習 (3年：小石川植物園)
- 避難訓練
- 全国学力学習状況調査 (6年)
- かがみ会合同委員会
- 健康診断
- 新入生を迎える会
- 通学別会
- 校外学習 (5年：芝山自然村)

5月

- 授業参観
- 保護者総会
- 教育後援会総会
- かがみ会総会
- 避難訓練
- 郊外園活動 (サツマイモ植え3・4年)
- 2年よもぎ団子作り
- 校外学習 (1年：小石川植物園)
- 帰国児童教育学級保護者会
- 1年グリーンピースさやむき
- 特別支援講演会 (1年保護者対象)
- 教育実習開始
- 運動会

6月

- 運動会代休
- 校外学習 (3年：昭和記念公園)
- 避難訓練、引き取り訓練
- 郊外園活動 (ジャガイモ掘り1・6年)

【附属中学校】

4月

- 入学式
- 始業式
- 保護者会
- 1年オリエンテーション
- 3年学力テスト
- 歓迎会
- 任命式
- 避難訓練
- 3年修学旅行 (東北方面：花巻・平泉・遠野・釜石)
- 3年全国学力調査

5月

- 健康診断
- 生徒総会
- PTA総会
- 教育後援会総会
- 1年郊外園 (サツマイモ植え付け)
- 体育大会

6月

- 2年理科校外学習
- 1年保護者会
- 保護者参観日

【附属高校】

4月

- 入学式
- 始業式・着任式・対面式
- 新入生オリエンテーション
- 新入生防災訓練 (池袋防災館)
- 3年修学旅行 (沖縄)
- 避難訓練 (地震)
- 自治会選挙・歓迎会
- PTA総会
- 教育後援会総会
- 各学年保護者会
- 春季健康診断

5月

- 1年学年合宿 (諏訪方面)
- 3年学力テスト
- 2年SGHフィールドワーク
- 1年農場実習 (サツマイモの植え付け)
- 作楽会総会
- 体育祭

6月

- 面談週間
- 自治会総会
- 学校説明会
- 保護者授業参観
- 期末考査
- 2年農場実習 (ジャガイモの収穫)



大塚に移転当時の園舎



昔の園庭での遊び

ンチでした。その廊下の照明が、今回の工事で大変工夫され、梁の後ろに設置されるようになり、玄関から見ると照明が見えなくなっています。照明の色も電球色で、温かい雰囲気になりました。その照明の効果で、高い天井がより高く、そして長い廊下がより長く感じられるようになりました。

窓枠、扉が3段のデザインに

窓枠、扉は竣工当時の3段のデザインに復元されました。窓のガラスは、工事前は下の窓が曇りガラスで、上の窓がクリアガラスだったのを入れ替えて、下をクリアなガラスに変えました。園庭の自然が、保育室に居ながらして目に飛び込んで来るようになって、恵まれた園庭の自然がより一層保育に生かされるようになりました。



附属幼稚園は来年11月に創立140周年を迎えます。附属幼稚園の歴史を物語る園舎、自然に恵まれた園庭、本園が守り続けてきた子どもを中心においた保育の歩みを次世代まで継承していけるよう、子どもたちとともに大事に毎日過ごしていきたいと思っています。



附属学校園からのお知らせ

キャンパス点描

平成 27 年度 高校教員等(高校・予備校) 向け オープンキャンパスを開催しました。

本学では、平成 25 年度から高校等の先生方を対象としたオープンキャンパスを開催しており、第 3 回目となる今年度は 6 月 13 日(土)に開催し、64 の高校から 68 名の先生方にご参加いただきました。

オープンキャンパスは 2 部に分かれており、第 1 部では学長の挨拶に始まり、学部長や本学担当教員から大学全体及び各学部の概要や入試、学生支援、海外留学支援に関する説明、第 2 部では相談ブースでの個別相談や学内ツアーを行いました。



第 1 部では、次年度から新たに導入する新型 AO 入試(新フボルト入試)の紹介を追加したこと、第 2 部では個別相談ブースを講堂内に設置し、学部長も個別相談の対応をしたことで、たくさんの高校等の先生方に相談ブースまでお越しいただくことができました。

平成 27 年度 桜蔭会研究奨励賞・大学院博士後期課程研究奨励賞



2015 年 5 月 27 日(水)、平成 27 年度桜蔭会研究奨励賞・大学院博士後期課程研究奨励賞・錦織子サ工奨学金授与式を挙行了しました。

桜蔭会研究奨励賞は、平成 19 年に本学同窓会の桜蔭会の助成により発足し、平成 25 年度入学者から一部制度を改組し入学前予約型奨学金となりました。本学学部在学者で、入試前に出願し、プレゼンテーション審査等を経て内定を得た者の中から大学院博士前期課程に進学した学生に贈られます。今年度は 21 名が受賞しました。

大学院博士後期課程研究奨励賞は、大学院生(博士後期課程)奨学基金をもとに平成 25 年度に新たに設立



錦織子サ工奨学金

平成 27 年度 みがかずば奨学金授与式及び 学部生成績優秀者奨学金授与式を挙りました。

2015 年 5 月 20 日 (水)、平成 27 年度みがかずば奨学金授与式及び学部生成績優秀者奨学金授与式を挙りました。

みがかずば奨学金は、お茶の水女子大学へ入学を希望する受験生に対して、入学後の生活の目処をたててもらうことを目的として、平成 23 年度に設立されたものです。今年度は、入試前に出願し内定を得た者の中から、本学へ入学を果たした 23 名の学部 1 年生が受賞となりました。

学部生成績優秀者奨学金は、学部 3 年に在学する者のうち、1、2 年次の成績、人物が特に優秀と認められた者について、これまでの努力を評価し、今後一層の勉学を奨励することを目的として、平成 23 年度に設立されたものです。今年度は、学部 1、2 年次から引き続き在学する本学学部 3 年生 (中途に休学期間がない者に限る。)の中から、厳正なる審査の結果、25 名の学生が受賞となりました。



式典では遠藤桜蔭会会長及び山川後援会会長ご臨席、学内教職員列席のもと、室伏学長から賞状を授与されました。

また、学長、遠藤会長及び山川後援会会長からお祝いと励ましの言葉がかけられ、各奨学金受賞者の中から 1 名ずつが、代表として謝辞と今後の学修・学生生活への意気込みについて挨拶を述べました。



みがかずば奨学金



学部生成績優秀者奨学金

錦織チサ工奨学金授与式を挙りました。

した入学前予約型奨学金です。本学大学院博士前期課程在学者で、入試前に出願し、プレゼンテーション審査等を経て内定を得た者の中から大学院博士後期課程に進学した学生に贈られます。今年度は 10 名が受賞しました。

錦織チサ工奨学金は、今年度から大学院博士後期課程入学者を対象として設立された新しい予約型奨学金です。寄附者の錦織チサ工様は、昭和 38 年 3 月に本学文教育学専攻科を修了され、都立高校の国語科教諭をなさっていました。このたび、博士後

期課程に引き続き進学する学生の研究奨励に資するご意向により、奨学金を授与することとなりました。審査等は大学院博士後期課程研究奨励賞と同時に挙られ、今年度は 1 名が受賞しました。

式典では遠藤桜蔭会会長及び錦織様のご臨席、学内教職員列席のもと、室伏学長から賞状を授与されました。

また、学長、遠藤会長及び錦織様からお祝いと励ましの言葉がかけられ、各奨励賞及び奨学金受賞者の中から 1 名ずつが、代表として謝辞と今後の学修・学生生活への決意について挨拶を述べました。



桜蔭会研究奨励賞



博士後期課程研究奨励賞



写真：孫田佳奈(写真部)

お茶の水女子大学学报 第 245 号

▽発行日：2015 年 7 月 18 日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電話：03-5978-5105

FAX：03-5978-5545

E-mail：info@cc.ocha.ac.jp

URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。